

北斎

かわらばん

第二十五号



「諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの滝」(大判錦絵)天保3、4年(1832、3)頃

諸国瀧廻り

下野黒髪山きりふりの滝

まるで、広がって伸びる木の根のようにもみえる滝を描いたこの作品は、華嚴の滝、裏見の滝とともに日光三名瀑の一つの霧降の滝(すべて栃木県日光市)を描いたものです。黒髪山なんたいざんは男体山の別名で、霧降の名

前は、滝の水が落ちる途中で岩にあたって霧状になるところから名づけられています。「諸国瀧廻り」は、滝を題材にしたシリーズで全八図が確認されています。本シリーズも、ほぼ同時期に発表された「富嶽

三十六景」などの風景版画のシリーズ同様に、滝という一つの対象を取り上げています。本シリーズで北斎は、各地にある滝を取り上げて水の様々な状態を描き分けようとしていました。この作品では、岩にあたって、

いく筋にも分かれて流れ落ちる滝、滝壺たきつぼの水しぶき、その下で波立った川となって流れていく様子と、様々に変化する水の状態を描き込んでいます。流れ落ちる滝は白と薄藍、藍の三色を使って、重量感あふれるように描いています。霧降の滝は、当時、日光への参詣客の多くが立ち寄ったといわれており、本図の登場人物も全て旅姿です。もしかしら滝を眺めて旅の疲れを癒しているのかもしれない。下から滝を見上げている旅人の他に、右上には腰をかかめたり、手を付いたりして恐る恐る滝壺をのぞき込む旅人を効果的に配置して、滝の大きさを表現するのに一役を担っています。



【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(公財)墨田区文化振興財団
北斎事業課



北斎さんは
どんな
人？

流派を越えて

北斎は
いろいろなことに
チャレンジ
しました

独立

を果たした人

今回は独立を
果たした
人として
紹介します

絵師・北斎の幕開け

「勝川派」入門

子供のころから絵を描くことが好きだった北斎は、安永七（一七七八）年に浮世絵師の流派のひとつ、勝川派の祖、勝川春章（しんしょう）に入門して絵師の修業を始めました。北斎がまだ十八歳の時のことです。

勝川派は、それまでの役者の顔が全て同ト人物のように描かれていた役者絵と異なり、歌舞伎の人気役者ひとりひとりの特徴を捉えて描くことによつて、大人気となった流派です。役者絵は今という、プロマイトのようなものでした。今では風景画の絵師と思われている北斎ですが、その絵師としての最初の仕事は、意外なことには歌舞伎役者の姿を描くこ



図1 「岩井半四郎 かしく」

とてした。

北斎は、師匠から春朗という名前をもらい、入門した翌年には、早くも錦絵「岩井半四郎 かしく」（図1）を発表します。これ以降、北斎は次々と役者絵を発表していきますが、同時に幅広いジャンルの絵も学ぼうと意欲的に修業をしていました。美人、相撲、武者、名所、宗教画そして子供など、この時期からすでにさまざまな作品を残しています。

「唐子の花車ひき」（図2）

のような可愛い子供の絵も当時描かれた作品です。師匠の春章も役者絵のほかに、いろいろな作品を描いていますが、その影響もあったのかもしれない。春章のもと、北斎は絵師として順調にキャリアを積んでいきました。

しかし、トラブルもあつたようです。兄弟子の勝川春好と仲が悪かつたという話が伝わっています。あるとき、北斎は両国にあつた絵草紙問屋から店の

看板絵を頼まれました。出来上がった絵を店の主人は喜んで店先に掲げましたが、そこを通りがかつた春好が、修業中の弟子である北斎の絵のつたなさを笑い、師匠に恥をかせるからと、北斎の目の前で絵を破り捨ててしまったのです。北斎は腹を立てましたが、トと我慢しました。そして晩年、この悔しさのおかげで自分の絵が上達したのだと語つたそうです。

「勝川派」を離れ 独立の道へ

入門後、約十五年の修業を経て、北斎は勝川派を離れ

ます。一説には破門になつたとも、勝川派を離れる二年前に師匠の春章が亡くなり学ぶものが無くなつたから、とも言われています。当時は一つの流派を離れると独立は難しく、絵師としての生活の道が閉ざされるのが一般的でした。しかし北斎は、勝川派を離れてから一時俵屋宗理（たわらやむねり）を襲名しますが、その数年後には北斎辰政（とよきちか）を名乗つて独立を果たします。これ以後、勝川派での経験を活かしながら、北斎は天地、宇宙、自然を師匠として独自に絵の道を究め、数々の名作を発表していくこととなります。



図2 「唐子の花車ひき」



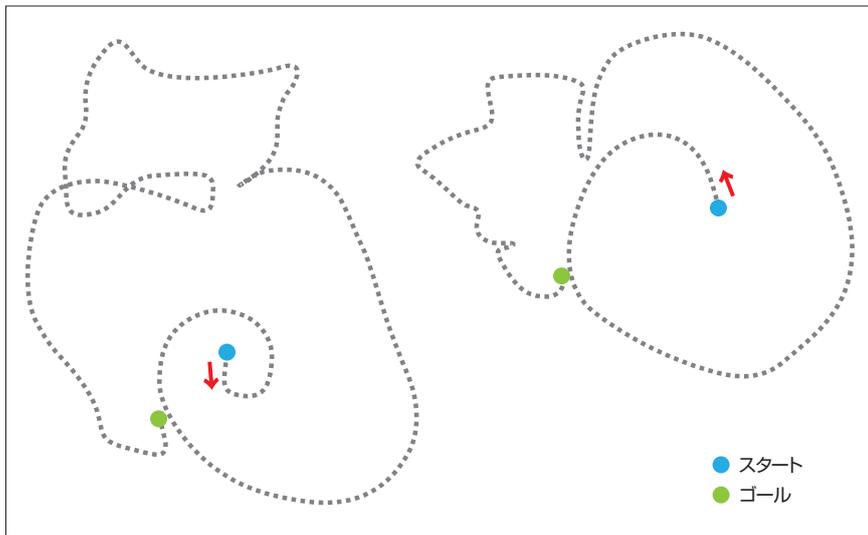
北斎には『一筆画譜』という一筆書きの絵を集めた本があります。一筆書きとは、紙から筆を一度も離さず、一本の線で絵を描くことです。北斎が名古屋に旅行した時、一筆書きの絵を見て感動し、この本を作ったそうです。

描くネをコ

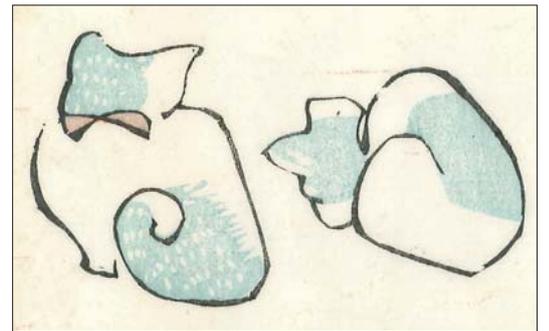
今回は、北斎先生に一筆書きの絵を習いましょう。①の矢印に沿って線をなぞってみてね。青の点が始まり、緑の点が終わります。

たかな？
次号も一筆書きを紹介いたします。お楽しみください！

ゴールです。まずは左の図からチャレンジ！線をなぞっていくと：「にゃーん」リボンをつけたかわいい猫ちゃんのできあがり！続いて右の図も描いてみましょう。



①



②

すみだと北斎

原庭町の梅塙先生

北斎は熱心な日蓮信徒でしたが、数々の仏教説話を題材にした作品を残していることから、日蓮宗だけでなく、仏教に対する知識も深かったように思えます。実は北斎に仏教に関する事を教えた武士がいました。荻野梅塙という人物です。

梅塙は幕臣で江戸城天守番という役職にいましたが、仏教研究者としても当時広く知られていました。とりわけ天台宗については博識だったようで、多くの天台僧が中之郷町内にあった原庭町（現在の吾妻橋一丁目、東駒形二、三丁目辺り）の梅塙邸で学んだようです。主に本所内を転居し続けた北斎と、原庭町に住む梅塙ならば、出会う機会も多く、頻繁に交流したことでしょう。



現代の地図

「すみだ北斎美術館」建築着工へ

平成28年度の開館に向け、すみだ北斎美術館の建設工事が始まりました。建設状況は、下記ホームページにて随時掲載していきます。是非、ご覧ください。

- 建設地 墨田区亀沢二丁目7番(緑町公園内)
- 構造 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
地上4階、地下1階
- 延床面積 3,280㎡
- 竣工 平成28年4月末(予定)
- 設計者 妹島和世氏



外観イメージ

「墨田区北斎基金」を通じて、墨田区をより元気にしたいと考えています。北斎とつながる「アート」や「ものづくり」は、地域での新しい交流を生み出し、まちの活性化を実現していきます。この「すみだ」から発信していく新たな取組みに、多くの皆さんのお力添えをいただきたいと考え、「墨田区北斎基金」を設置し、寄付キャンペーンを開始しました。お寄せいただきました。ご寄付は、美術館の建設や資料収集、開館後の展覧会事業の充実のために活用させていただきます。

■寄付メニュー(個人)

寄付の種類	金額	主な特典
絵画一口オーナー	1口100万円	<ul style="list-style-type: none"> ▼館内寄付者銘板にお名前を掲載 ▼作品展示の際にお名前を掲載 ▼区ホームページ及び当館ホームページに、作品解説とともに名前を掲載 ▼スペシャル公開デーにご招待
一日北斎(一日館長)	1口10万円 *個人・法人 合わせて 270人	<ul style="list-style-type: none"> ▼館内寄付者銘板にお名前を掲載 ▼5年間有効の入館無料パス「北斎証」の進呈 ▼「一日館長」に任命 *1口につき1回
北斎サポーター	1口1万円	<ul style="list-style-type: none"> ▼1年間有効の入館無料パスの進呈 ▼北斎サポーターデーへのご招待
北斎寄付	1口1000円	北斎ステッカーの進呈

■税制上の優遇

当基金へご寄付いただいた場合には、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、管轄の税務署・お住まいの区市町村の税務担当課にお問い合わせください。

■寄付のお申込み・お問合せ先

文化振興課北斎美術館開設担当 ☎03-5608-6115(直通)
※法人向け寄付メニュー、その他詳細については、本庁・出張所・図書館その他区内施設においてリーフレットを配布しているほか、下記の公式ホームページでもご案内しています。



すみだ北斎美術館

下記ホームページでは、すみだ北斎美術館のダイジェスト映像や、無料でダウンロードできるスクリーンセーバーなどをご用意しております。是非、ご覧ください。

<http://hokusai-museum.jp>

ともに伝えよう
すみだの「北斎」



「墨田区北斎基金」ご支援のお願い

区では、「すみだ北斎美術館」を通じて、墨田区をより元気にしたいと考えています。北斎とつながる「アート」や「ものづくり」は、地域での新しい交流を生み出し、まちの活性化を実現していきます。この「すみだ」から発信していく新たな取組みに、多くの皆さんのお力添えをいただきたいと考え、「墨田区北斎基金」を設置し、寄付キャンペーンを開始しました。お寄せ

【北斎関連展覧会のご案内】
「ポストン美術館 浮世絵名品展 北斎」

ー上野の森美術館

本展では、世界屈指の日本美術コレクションで知られる米国・ポストン美術館所蔵の作品から北斎の魅力に迫ります。保存状態が極めて良好なポストン美術館の浮世絵作品の中でも特に選りすぐられた約140点もの作品が展示されます。ポストン美術館所蔵作品ならではの鮮やかな北斎作品をお楽しみください。



「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」
天保2年(1831)前後
William Sturgis Bigelow Collection
Photograph © 2014 Museum of Fine Arts, Boston. All rights reserved

■会期 平成26年9月13日(土)～11月9日(日)
■問い合わせ ☎03-5777-8600(ハローダイヤル)